

母親の持つ育児不安の葛藤に対する心理的・社会的支援に関する一考察 —子育て支援の広場活動に参加した親のアンケートより—

Study of psychological and social support for mothers suffering from childcare anxiety:
questionnaire survey of parents who participated in social activities held for childcare support

阪上 節子
Setsuko Sakaue

要 旨

本研究の目的は、育児不安の要因に関する母親の心理傾向と、社会に対する認識を知り、育児不安との関連について明らかにすることである。本調査は、母親の育児不安の要因と母親の希望する支援との関係について調べ、そこから母親がどのような育児支援を求めているかを導き出す。

Abstract

This study was designed to reveal the relationship between mothers' psychological disposition in regard to factors associated with childcare anxiety and their perception of society. The survey investigated the relationship between factors underlying mothers' childcare anxiety and their desired childcare support in order to determine what kind of childcare support they need.

キーワード：「社会的要因である育児環境の認識」、「育児不安と育児環境の認識」、「希望する育児支援」

Key words：recognition of the childcare environment as a social factor, mothers' perception of childcare anxiety and childcare environment, desired childcare support

1 はじめに

育児不安についての研究は、牧野（1982）の研究以来、多数行われているが、育児不安という概念の定義は、明確に定まっているとは言えない。育児不安について、例えば、牧野（1982）は「子の現状や将来あるいは育児のやり方や結果に対する漠然としたおそれを含む情緒の状態」とし、輿石（2002）は、「直接的には子どもとの相互作用で巻き起こされる負の感情の葛藤」と規定し子育てする上で重要なテーマであると考える。

<育児不安の要因>

（1）子ども側の要因 （2）母親側の要因 （3）社会的要因の3つに分類する。

II 目的

母親が感じる育児不安と母親が自分を取り巻く育児環境についてどのように認識しているか育児環境と社会的要因とどのように関係しているかを調べることで、母親が望む育児支援サービスの提供のあり方を明らかにする。

III 調査方法

〇保育所が実施する保育所の広場にきた母親を対象に質問用紙を配布した。回答用紙は会場内にある質問紙回収箱に入れるか、手渡しで返却してもらう方式で回収した。

・配布数238通 ・回収数132通（回収率 55.5%）・調査期間：令和元年7月～9月

①親の年齢 ②子どもの数 ③就労状況 ④子どもの年齢 ⑤家族構成 ⑥住居形態

<育児不安尺度> (47項目)

「あてはまる」「ややあてはまる」「どちらでもない」「ややあてはまらない」「あてはまらない」の5段階で評価する。

<育児環境基準> (18項目)

「行動制約感」「周囲からの圧力」「バリアフリー意識」「社会交流」の4つの下位基準からなり、合計18項目について、育児をする中で感じたことを5段階で評価する。

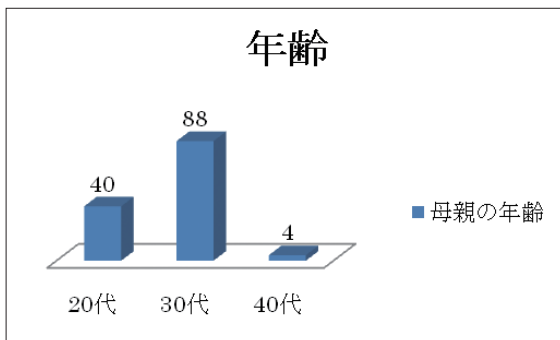
<希望する育児支援サービス> (13項目)

加藤ら(2000)、島田ら(2001)、山崎ら(2002)の先行研究を参考に、「バリアフリー」「相談」「保育託児」「交流の場」の4つの視点から具体的に13項目を作成した。それぞれの項目の支援サービスについて、「希望なし」を0点、「希望あり」を1点、「強く希望」を2点として、評価する。

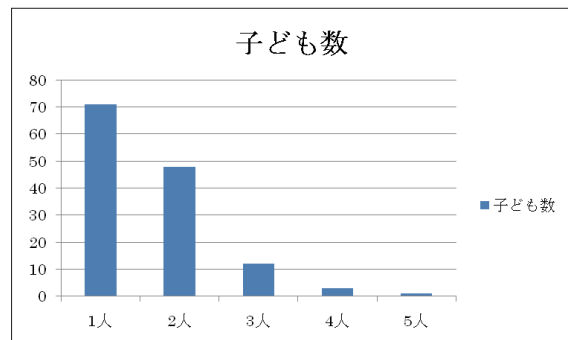
IV 結果

(1) フェイスシートの単純集計結果

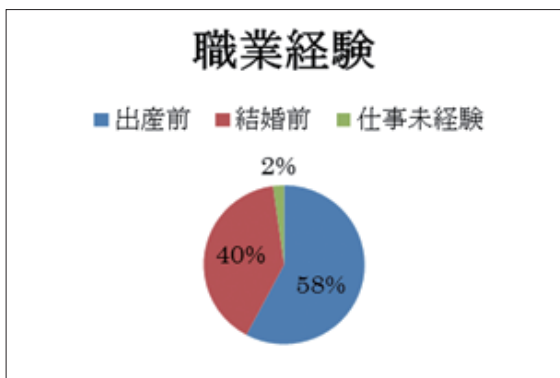
質問用紙の1フェイスシート部分の記述統計の結果は以下に示す。(Fig1-1~10)。サンプル数は、132人であり、各年代別には、20代40人、30代88人、40代4人であった。子どもの数は、1人52.7%、2人34.3%、であり、この二つを合わせると全体の約9割を占める。また、専業主婦は(78%)、育児休暇中が(14%)、調査時点で何らか就労しているのは7%であった。職業経験としては、結婚前まで就労と出産前までの就労を合わせると(99%)、結婚や出産で女性が家庭に入るライフスタイルの固定化が伺えた。



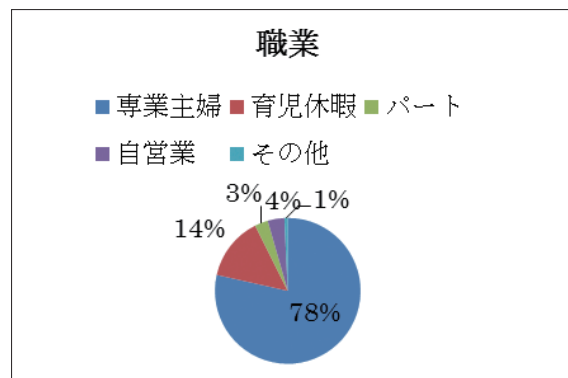
<Fig 1-1 母親の年齢>



<Fig 1-2 子ども数>

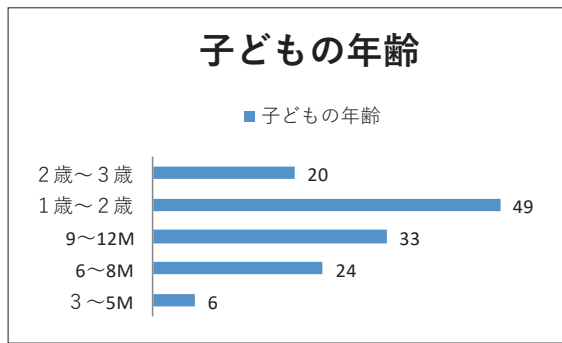


<Fig 1-3 職業経験>

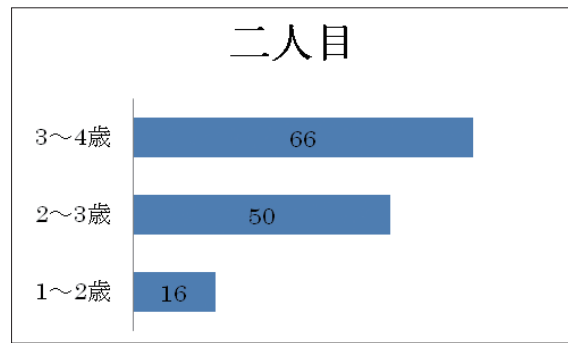


<Fig 1-4 職業>

子どもの年齢については、3カ月以降から育児相談や広場に参加でき、遊びが活発になり、1歳~2歳児を持つ母親が36%で最も多い、9ヶ月~12ヶ月児を持つ母親が27%となる。2人目については、3歳~4歳が最も多い。第1子と第2子の出産間隔が平均3~4年であることがわかる。

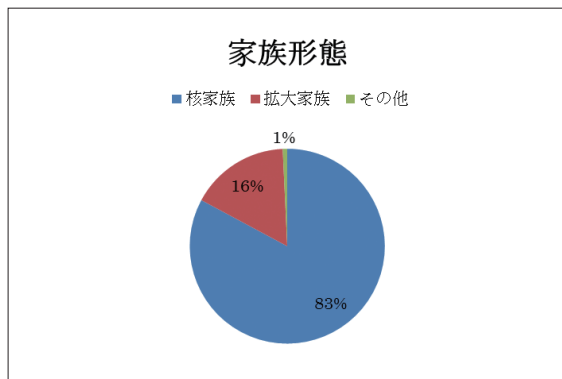


<Fig 1-5 子どもの年齢>

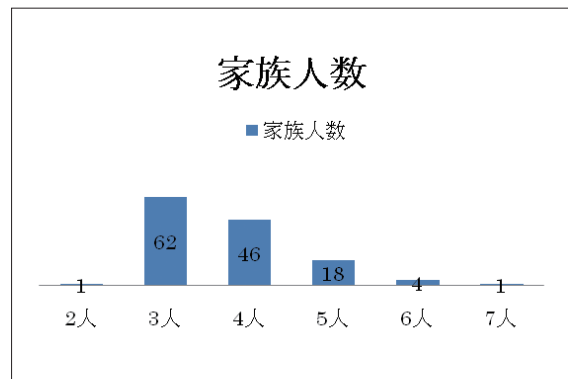


<Fig 1-6 子どもの数>

家族形態については3人、4人家族が全体の83%を占めている。家族構成員も夫と子ども以外の成員を含まずほとんどが夫婦と子どもからなる核家族である。

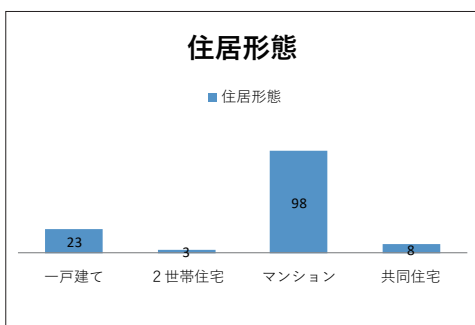


<Fig 1-7 家族形態>

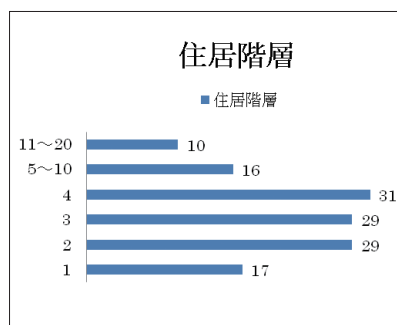


<Fig 1-8 家族人数>

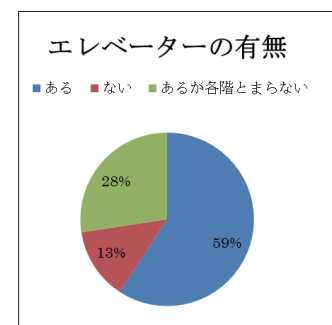
住居形態については、98人がマンション等集合住宅であり、調査地域の特徴を反映し、一戸建て23人、その他11人で、一戸建ての割合は少ない。集合住宅の居住階数は、1階居住が全体の17人、2階以上の居住が全体の115人となっている。(28%)の住居には、エレベーターが設置されていても、各階にとまらない住環境である。



<Fig 1-9 住居形態>



<Fig 1-10 住居階層>



<Fig 1-11 エレベーター有無>

(2) 母親の感じる育児不安

育児不安尺度項目ごとの得点の平均と標準偏差値を表1に示す。

最も平均値が低く「当てはまる」と答えた項目は、「4.子どもがかわいいと感じる(1.12)」,次に「6.子どもの発育に喜びを感じる(1.11)」であり、反対に最も「当てはまる」と答えた項目は、「14.夫が育児の話を聞いてくれない(4.58)」,「26.育児書通りに育たなくて不安(4.39)」であった。

表1 一般群育児不安尺度回答プロフィール

I 育児不安尺度	当てはまる				当てはまらない		平均値	SD
	1	2	3	4	5			
1 母乳が足りないのではないかと不安						3.88	1.45	
2 夫が育児に協力してくれない						3.96	1.25	
3 子育てに生きがいを感じる						1.85	1.07	
4 子どもがかわいいと感じる						1.12	0.46	
5 育児に自信がもてない						3.39	1.23	
6 子どもの発育に喜びを感じる						1.11	0.41	
7 育児をしていて楽しいと感じる						1.60	0.91	
8 子どもが病気にならないかと心配						2.03	1.18	
9 母乳で育てたいと思う						1.76	1.19	
10 同じ月齢の子どもと遊ばせる機会がない						3.20	1.67	
11 同じ月齢の子どもをもつ母親の友だちがいない						3.55	1.66	
12 子どもの事を気軽に話し合える友だちがいる						1.81	1.35	
13 一緒に遊びに出かけられる友だちがいない						3.70	1.56	
14 夫が育児の話聞いてくれない						4.58	0.90	
15 母乳を与えた時に子どもとの一体感を感じる						1.77	1.25	
16 昼間子どもと二人だけなので話し相手がほしい						3.44	1.39	
17 仕事をしたいが子どもがいるためにできない						3.64	1.45	
18 子育てが自分の思っていたイメージと違う						3.48	1.45	
19 子育てをすることで自分も成長すると感じられる						1.35	0.70	
20 自分の思ったように子どもが育たない						3.39	1.48	
21 自分は子育てに向いていないと感じる						3.69	1.32	
22 子どもにする周囲の期待がプレッシャーになる						4.08	1.23	
23 母親グループに入りたい						3.39	1.39	
24 子育てだけで、社会から取り残される感じがする						3.84	1.37	
25 ひどくしゃってしまい、後で落ち込む						3.27	1.64	
26 育児書どおりに子どもが育たなくて不安						4.39	0.96	
27 子どもとの生活で、孤独感を感じる						4.00	1.30	
28 自分は子どもを上手く育てていると思う						2.85	1.09	
29 子どもは、けっこう一人で育っていくものだと思う						2.53	1.23	
30 子どもをおいてたまには外出したい						2.45	1.44	
31 自分ひとりで子どもを育てているのだと感じてしまう						3.98	1.34	
32 毎日、同じことの繰り返しでつまらない						3.75	1.37	
33 子どもを育てるためにがまんばかりしていると思う。						3.80	1.20	
34 子どもだけが生きがいであると感じる						3.76	1.32	
35 母親だけでなく、大勢の人達が子どもを育ててくれていると思う						1.92	1.12	
36 子どもにのめりこみそうになる						3.44	1.33	
37 子育て以外にもやりたいことがあるのにできない						3.17	1.34	
38 子どもから離れてやりたいことができていると感じる						3.75	1.19	
39 夫は子育てに責任を持っていないと思う						4.14	1.20	
40 育児ノイローゼではないかと思うことがある						4.32	1.05	
41 夫の仕事に比べて妻の仕事は大変だと思う						3.30	1.30	
42 ひとりでゆっくり寝たい						2.29	1.34	
43 子どもを預けて、育児から解放されたい						3.26	1.39	
44 子どもに何かあれば、自分の責任だと感じてしまう						1.95	1.11	
45 育児情報がありすぎて、どれを信じてよいのかわからない						3.28	1.39	
46 祖父母は育児に協力してくれる						2.10	1.40	
47 早く子育てから卒業しているのとやりたい						3.46	1.26	

(3) 育児環境に対する認識

育児環境尺度項目ごとの得点の平均と標準値、表2に示す。最も平均値が低く「当てはまる」と答えた項目は、「10. 知らない人が、子どもに話しかけてくれる (1.54)」次に、「4.子連れだと、街中の階段や段差が気になる (1.28)」である。反対に、最も平均値が高く「あてはまらない」と答えた項目は、「13.子どもを連れて出歩くことを非難されるように感じる (4.21)」である。

表2 一般群育児環境尺度回答プロフィール

II 育児環境尺度回答プロフィール	当てはまる				当てはまらない		平均値	SD
	1	2	3	4	5			
1 近所に付き合いができる人がいない						3.51	1.62	
2 保育所や一時託児のサービスが少ない						2.96	1.36	
3 夫や実家以外で子どもを預けられる人がいない						2.51	1.69	
4 子連れだと、街中の階段や段差が気になる						1.28	0.78	
5 ベビーカーで出かける時に、段差や出入口で困ったことがある						1.30	0.85	
6 自動車で出かけた時に、駐車場などで困ったことがある						2.43	1.58	
7 子連れで出かけられるところが少ない						2.32	1.36	
8 優先座席をゆずってもらったことがない						2.98	1.58	
9 近隣の人が気軽に声をかけてくれる						2.08	1.26	
10 知らない人が、子どもに話し掛けてくれる						1.54	0.83	
11 安心して子どもを遊ばせる場所がない						3.22	1.35	
12 公園で子どもの姿を見かけないので、行きにくい						3.87	1.25	
13 子どもをつれて出歩くことを非難されるように感じる						4.21	1.17	
14 自分の用事で外出がしにくい						2.39	1.41	
15 エレベーター、エスカレーターがなくて、困ったことがある						1.60	1.16	
16 人ごみに子どもを連れて行って、困ったことがある						2.24	1.34	
17 外出するよりも家にいたほうが楽だと感じる						2.76	1.39	
18 困った時、知らない人が手助けをしてくれた						2.27	1.38	

(4) 育児不安・育児環境についての因子構造

質問紙調査結果、どのような心理・社会的要因や育児不安や育児環境に対する認識が、母親の中にあるか探索的因子分析をした。Ⅱ母親の感じる育児不安47項目、Ⅲ育児環境への認識について18項目を、それぞれ主因子法（バリマックス回転）によって分析した。固有値が1以上の因子を抽出したところ、Ⅱ母親の感じる育児不安については4因子（表3）、Ⅲ育児環境については、7因子（表4）を抽出した。

表3 育児不安尺度の因子分析結果（バリマックス回転後）

項目	第1因子	第2因子	第3因子	第4因子
育児生活への不満				
27 子どもとの生活で孤独感を感じる	0.722	0.030	0.083	-0.218
32 毎日、同じことの繰り返しでつまらない	0.712	0.117	0.098	-0.268
37 子育て以外にもやりたいことがあるのにできない	0.711	0.075	0.046	-0.001
24 子育てだけで、社会から取り残される感じがする	0.663	0.028	-0.023	-0.158
43 子どもを育てるためにガマンばかりしていると思う	0.661	0.048	0.137	-0.027
43 子どもを預けて解放されたい	0.601	0.260	-0.090	-0.159
16 養育者子どもと二人だけなので話し相手がほしい	0.554	-0.072	0.265	0.001
31 自分一人で子どもを育てているのだと感じてしまう	0.547	0.166	0.299	0.259
17 仕事をしたいが子どもがいるためできない	0.539	-0.100	0.146	-0.176
47 早く子育てから卒業していろいろとやりたい	0.504	0.337	-0.081	-0.237
30 たまには子どもをおいて外出したい	0.468	0.056	-0.101	-0.180
23 母親グループに入りたい	0.444	-0.174	0.036	0.132
42 ゆっくり一人で寝たい	0.403	0.163	0.012	0.111
42 が育児に協力してくれない	0.385	0.115	0.045	0.380
14 夫が育児の話聞いてくれない	0.333	0.118	0.296	0.263
41 夫の仕事に比べて妻の仕事は大変だと思う	0.310	0.116	0.135	0.237
28 (子どもから離れてやりたいことができていると感じる)	-0.209	-0.181	-0.016	-0.026
29 (子どもは結構一人で育っていくものだと思う)	-0.134	-0.045	0.021	-0.048
育児への不適切感				
21 自分は子育てに向いていない	0.040	0.780	-0.050	-0.252
20 自分の思ったように子どもが育たない	0.075	0.715	-0.192	0.004
28 自分は子どもを上手に育てていると思う	0.000	-0.660	-0.037	0.287
25 ひどくしゃってしまい、後で落ち込む	0.109	0.630	-0.207	-0.070
5 育児に自信が持てない	0.095	0.621	0.127	-0.265
40 育児ノイローゼではないかと思うことがある	0.388	0.518	0.226	-0.074
子どもに何かあれば自分の責任だと感じてしまう	0.032	0.466	0.117	0.239
26 育児書通りに子どもが育たなくて不安	0.404	0.448	0.146	0.261
18 子育てが自分の思っていたイメージとは違う	0.295	0.411	0.050	0.020
22 子どもにする周囲の期待がプレッシャーになる	0.174	0.361	0.138	0.181
1 (母乳が足りない不安)	-0.045	0.165	0.067	-0.081
交流の狭さ				
13 一緒に遊びに出かけられる友達がない	0.052	-0.061	0.852	-0.074
11 同じ月齢の子どもをもつ友達がない	-0.007	0.004	0.821	-0.205
10 同じ月齢の子どもとあそぶ機会がない	0.038	-0.043	0.814	-0.147
12 子どもを気軽に話し合える友達がいる	-0.054	-0.050	-0.597	0.022
34 子どもだけが生きがいであると感じる	0.312	-0.101	0.416	0.308
35 母親だけでなく、大勢の人たちが子どもを育ててくれると思	-0.047	-0.335	-0.345	-0.043
45 育児情報がありすぎてどれを信じてよいかわからない	0.154	0.204	0.246	0.166
46 祖父母が育児に協力してくれる	-0.041	-0.201	-0.245	-0.017
3 子供が病気になる心配	-0.038	0.191	0.233	0.178
充実感				
3 子育てに生きがいを感じる	-0.084	-0.371	0.005	0.633
7 育児をしていて楽しいと感じる	-0.130	-0.411	-0.092	0.599
4 子どもがかわいいと感じる	-0.081	-0.003	-0.119	0.565
15 母乳を与えたとき一体感を感じる	-0.065	-0.041	0.040	0.516
6 子どもの発育に喜びを感じる	-0.076	-0.268	-0.151	0.448
16 子どもにのめりこみそうになる	0.194	-0.117	0.334	0.447
39 子育てをすることで自分も成長すると感じられる	-0.145	-0.096	-0.266	0.407
9 夫は子育てに責任を持っていないと思う	0.362	0.151	0.077	0.380
9 母乳で育てたいと思う	-0.169	0.201	0.026	0.338
固有値	7.428	4.164	3.066	2.720
因子寄与率	15.604	8.861	6.513	5.786
$\alpha = 0.7678$				

(5) 育児不安尺度に関する因子分析結果

第1因子は、現在の生活全般への不満を表している、「育児生活への不満」とする。

第2因子は、自分の子育てに対して自信が持てず、子どもに対して適切に関われていないのではないかという気持ちが伺える、「育児への不適切感」とする。

第3因子は、同じ子どもを持つ母親同士の交流の少なさが伺え、「交流の狭さ」とする。

第4因子は、子育てに対してポジティブな気持ちを持ち、充実感が伺える、「充実感」とする。各因子における固有値、因子寄与率は、表3の通りである。信頼度として、クローンバック α 検定を行い、 $\alpha=0.77$ であった。

(6) 育児環境尺度の因子分析結果

第1因子は、「ベビーカーで出かけるとき段差や入口で困ったことがある」「子ども連れだと街中の階段や段差が気になる」「エレベーター、エスカレーターがなくて困ったことがある」の項目で構成されており、子どもを連れて行動するときに制約を受けることから「行動制約的環境」とする。第2因子は、「近隣の人が気楽に声を掛けてくれる」「知らない人が、子どもに話し掛けてくれる」「困ったとき、知らない人が手助けしてくれた」の項目で構成されており、子どもを介して交流の輪が広がる様子から、「交流的環境」とする。第3因子は、「夫や実家以外で子どもを預けられる人がない」「近所に付き合いができる人がいない」など、近隣で育児を支える交流がなく、育児を支える人的資源がない状況から、「人的資源不足」とする。第4因子は、「自動車を出かけるときに駐車場で困ったことがある」「子連れで出かけられるところが少ない」の項目で構成されており、子どもを連れて外出する先が少なく、外出先での施設面での不備など、子育てを積極的に楽しむための物理的な受け皿が不足している状況から「物的資源不足」とする。第5因子は、「優先座席でゆずってもらったことがない」「自分の用事で外出しにくい」の項目で構成されており、母親が育児生活の中で、保護されるよりも、不利益を被っていると感じる気持ちから「被害的環境」とする。第6因子は、「子どもを連れて出歩くことを非難されるように感じる」「外出するよりも家にいたほうが楽だと感じる」「公園で子どもの姿を見かけないので行きにくい」の項目で構成されており、子ども連れを、外出先で見ることが少ないために、外出することをた

めらう気持ちがあることがから、「疎外的環境」とする。第7因子は、「安心して子どもを遊ばせるところがない」「保育所や一時託児サービスが少ない」の項目で構成されており、子どもの保育にかかる場が少ない状況から「保育場不足」とする。(P12表4参照)

V 因子間の相関分析結果

育児不安と育児環境についての因子分析の結果から、不安4因子、環境7因子の各育児不安と育児環境についての因子分析の結果から、不安4因子、環境7因子の各子について、因子を構成している項目の強い順に合成した。育児不安因子と育児環境とで(表5)の因子間相関数では、有意水準0.01%で有意差のあったものは、不安3「交流の狭さ」と環境3「人的資源不足」(0.575)で、次いで、不安3「交流の狭さ」と環境6「疎外的環境」(0.392)であった。

負の相関を表したものは、不安3「交流の狭さ」と環境2「交流的環境」(-0.309)であり、それ以外はすべて正の相関であった。以上から、育児不安と育児環境に対する認識は、相互に関連があると認められる。特に社会から疎外されていると感じる母親は、育児が適切に行えている実感が低く、育児に関する資源に対しても不足感や被害者感を持つなど、引きこもる傾向が見られる。また、交流の狭さや育児生活への不満を感じる母親は、育児環境に対して疎外的、被害的な認識をしている傾向がある。

表5 因子間相関係数

	育児不安因子	育児環境因子	相関係数
P<0.01	交流の狭さ	人的資源不足	** 0.575
	交流の狭さ	疎外的環境	** 0.392
	交流の狭さ	交流的環境	** -0.309
	育児生活への不満	人的資源不足	** 0.24
	育児不適切感	疎外的環境	** 0.239
P<0.05	充実感	疎外的環境	* 0.218
	交流の狭さ	保育場不足	* 0.214
	育児生活への不満	被害的環境	* 0.222
	育児生活への不満	疎外的環境	* 0.176
	交流の狭さ	被害的環境	* 0.175
	交流の狭さ	行動的制約的環境	* 0.174

希望する育児支援サービス

希望する育児支援サービス（以下育児支援傾向と略す）12項で「バリアフリー」「相談」「保育託児」「交流の場」の4つの軸からなる項目の、平均から育児支援傾向得点を算定した。

(1) 育児不安・育児環境要因と育児支援傾向

表6-1 育児支援得点

	相談支援希望	交流の場支援	保育託児支援	バリアフリー
平均値	0.356	0.513	0.331	1.023
標準偏差	0.417	0.382	0.338	0.668

表6-2 育児支援得点の内訳

		支援策	平均	SD
相談支援希望	1	いつでも受けられる育児相談	0.366	0.542
	2	24時間対応の電話相談	0.374	0.584
	5	保育士による育児相談	0.336	0.533
交流の場支援	6	先輩ママや同じ年頃の子どもの持つ母親から体験談を聞く	0.244	0.447
	8	保育所や幼稚園などでの、育児の体験学習の場	0.344	0.521
	9	近所で子どものお友達を紹介してくれる機関や人	0.237	0.460
	10	子どもを遊ばせながら、お母さん同士の交流ができる場	0.511	0.597
保育託児支援	3	子どもを気楽に、一時預かりしてくれる保育所	0.786	0.665
	4	子どもを預かってくれるファミリーサポートサービス	0.298	0.490
	7	病気の時に預かってくれる人や場所	0.588	0.652
	12	教室や講座の託児サービス	0.397	0.601
バリアフリー	11	公共機関での駐車場やエレベーターの設置	1.031	0.665

育児支援傾向の4つの軸の中で、平均得点の最も高い支援は、「バリアフリー」に対する支援、次に「交流の場」希望、「相談」支援希望、「交流の場」支援希望の順になっているが、標準偏差では、標準偏差の高いのも「バリアフリー」であり、最も少ないのが、「保育託児」支援であった。(表6-1,6-2)

次に各因子と育児支援傾向得点との相関においては、不安1「育児生活への不満」と「保育託児」支援、環境1「行動制約的環境」と「バリアフリー」について、1%水準で有意であり、不安1「育児生活での不満」と「交流の場」支援、環境3「人的資源不足」と「保育託児」支援との間に5%水準で有意であった(表7)。しかし、その他8つの因子からは、育児支援傾向との相関は見られない。不安4「充実感」、環境2「交流的環境」は、育児に対してポジティブな意識であり、直接育児支援に結びつかない。不安2「育児不適切感」不安3「交流の狭さ」環境5「被害的環境」環境6「疎外的環境」と育児支援へ結びつく傾向は見られない。

表7 育児不安・育児環境因子と育児支援との相関

		相談支援希望	交流の場支援	保育託児支援	バリアフリー
育児生活への不満	Pearson の相関係数	0.156	0.177 *	0.372 **	-0.068
	有意確率(両側)	0.075	0.043	0.000	0.437
	N	132.0	132.0	132.0	132.0
育児への不適切感	Pearson の相関係数	0.063	0.102	0.113	-0.118
	有意確率(両側)	0.475	0.244	0.199	0.178
	N	132.0	132.0	132.0	132.0
交流の狭さ	Pearson の相関係数	0.020	-0.072	0.047	-0.067
	有意確率(両側)	0.824	0.411	0.596	0.442
	N	132.0	132.0	132.0	132.0
充実感	Pearson の相関係数	0.158	-0.112	0.055	-0.023
	有意確率(両側)	0.070	0.199	0.530	0.790
	N	132.0	132.0	132.0	132.0
行動制約的環境	Pearson の相関係数	-0.027	-0.025	-0.013	0.251 **
	有意確率(両側)	0.761	0.775	0.883	0.004
	N	132.0	132.0	132.0	132.0
交流的環境	Pearson の相関係数	-0.033	0.122	-0.004	-0.015
	有意確率(両側)	0.710	0.163	0.964	0.868
	N	132.0	132.0	132.0	132.0
人的資源不足	Pearson の相関係数	0.153	-0.045	0.193 *	-0.008
	有意確率(両側)	0.079	0.608	0.027	0.924
	N	132.0	132.0	132.0	132.0
物理的資源不足	Pearson の相関係数	-0.033	0.097	0.002	0.150
	有意確率(両側)	0.710	0.271	0.983	0.086
	N	132.0	132.0	132.0	132.0
被害的環境	Pearson の相関係数	-0.004	0.087	0.001	0.056
	有意確率(両側)	0.963	0.319	0.991	0.521
	N	132.0	132.0	132.0	132.0
疎外的環境	Pearson の相関係数	-0.118	0.012	-0.036	0.067
	有意確率(両側)	0.178	0.893	0.681	0.444
	N	132.0	132.0	132.0	132.0
保育場不足	Pearson の相関係数	-0.151	0.130	-0.050	0.076
	有意確率(両側)	0.083	0.139	0.572	0.386
	N	132.0	132.0	132.0	132.0

** 相関係数は 1% 水準で有意(両側)

* 相関係数は 5% 水準で有意(両側)

VI 考察

少子化・核家族化によって育児の生活文化の継承が途絶えてきた現在、母親が出産して初めて体験する育児に戸惑いを感じている。従来は経験の浅い母親の育児をサポートしていた親類、近所等のコミュニティーの力も弱くなったことも、孤立化した母親の育児不安を増強させる一因となっている。このような育児不安に対して、さまざまな支援が行われているが、育児不安への対応が十分になされているとは言えない状況である。

今回の研究では、母親の育児不安にどのような支援が行われる必要があるかを明確にすることであり、そのためには、まず乳幼児を養育している母親の育児不安についての心理状態、育児を取り巻く環境に対する認識の実態を明らかにすることが必要であった。

まず、重要な調査項目の作成については、相談記録の調査に加えて従来の育児不安に関する他の研究や乳幼児を保育している保育士の体験に基づいて、不安47項目・環境18項目計65項目を選定した。探索的因子分析を使用し、因子の抽出を行った。

調査対象を、主に0歳～1歳の子どものを養育している母親とした。これは、加藤(2000)らの研究で2歳・3歳から母親の養育意識・行動の傾向が変化するという知見がありこのことから調査対象を乳幼児期前半とした。今後は、子どもの年齢を幼児期後半まで広げることにより、子どもの発達段階に合わせた育児不安の対応の検討が必要である。

また、調査標本が132名であり、しかも調査地域が0保育所に限られている。求められる育児支援策については、現在地域で実施されている支援内容の差によって影響を受けるため、得られた結果をすべて一般化することは難しい。今後、調査標本数を増やし、また地域差についての比較検討が必要である。

VII 結果

乳幼児を育てる母親は育児生活からのストレスだけではなく、社会から疎外感や心理的要因としての孤立感を感じていた。育児不安・育児環境尺度からの探索的因子分析により、育児環境の第6因子に「疎外的環境」因子を抽出した。これにより、母親にとって育児環境に「疎外的環境」という要因があると言える。また、孤立についての、因子としては、抽出できなかったが、育児不安第1因子の「育児生活への不満」を構成する第1要素として、「子どもとの生活に孤立感を感じる」があり、母親達は、日常生活に孤立感を強く感じ母親は育児を行う中で、孤立感を深めている。社会からの疎外感や孤立感を感じている母親は、育児支援を求めない傾向が探索的因子分析で抽出できた。11因子同士の相関から、「疎外的環境」は他のすべての因子と相関が認められ、「孤立感」を要素に持つ「育児生活への不満」も、「育児不適切感」「人的資源不足」「物的資源不足」「被害的環境」と相関が認められ、この2つの因子が、他の育児不足の要因に大きな影響を与えている。しかし、育児支援を「相談支援」「交流の場支援」「保育託児支援」「バリアフリー」の4つの軸でまとめたものと、各因子との相関を求めた結果、各支援と「疎外的環境」との間で、有意の相関は認められなかった。孤立を要素に持つ「育児生活への不満」は、「保育託児支援」とで、有意水準1%で相関があり、「交流の場支援」とで、有意水準5%で相関があった。ただし、この場合「育児生活への不満」因子は、育児生活に対する他の要素も含んでいるため、孤立感が、支援を必要としたかの証明にはならない。育児不安の質の違いから、母親の求める育児支援策に違いがあった。探索的因子分析で抽出した各因子も同様に、「相談支援」「交流の場支援」「保育託児支援」「バリアフリー」の育児支援の4つの軸で、ピアソンの相関を求めた。有意な相関が認められたのは、有意水準1%で、「育児生活の不満」と「保育託児」、「行動制約的環境」と「バリアフリー」の2箇所であり、有意水準5%では、「育児生活への不満」と「交流の場支援」、「人的資源不足」と「保育託児支援」であった。さらに、それぞれ具体的な支援策と要因についての、支援の希望の有無の差を検定した結果、有意差のあったものは、①「相談支援」の中で「いつでも受けられる育児相談」と「保育場不足」、②「交流の場支援」の中で「保育所や幼稚園での育児の体験学習の場」と「育児生活の不満」「育児不適切感」「物的資源不足」「近所の子どもの友達を紹介してくれる機関」と「人的資源不足」③「保育託児支援」の中で「子どもを気軽に一時預かりしてくれる保育所」と「保育場不足」、④「バリアフリー」の中で「公共機関での駐車場やエレベーターの設置」と「交流の狭さ」「行動制約的環境」「疎外的環境」であった。

これらのことから支援の方向性について考えると、「相談支援」では、いつでも受けられることが、保育場不足と関連があることから、保育場を求める心理が、相談を求めていることを意味している。また、「交流の場支援」では、生活の不満や自信のなさ、物理的な環境の不備といった要因が、育児の体験を求めている。これは、「交流の場支援」が育児体験不足を解消してくれるという期待である。さらに、「保育託児支援」では、子どもの遊び場の不足を感じている母親が、子どもの保育・託児への希望は、保育・託児による育児負担からの解消の意味ではなく、子どもの遊ぶ場を希望していると考えられる。最後の「バリアフリー」は、交流が狭く、行動を制約されている社会から疎外されていると感じている人は、最も行動が自由にできる環境を求めていると言える。

このように、支援策について見ていくと、母親の不安の質に対応した育児支援策への希望があることが認められる。乳幼児を養育する母親とひとくくりをしているが、それぞれに皆違った特徴をもっている。その違いに、きめ細かく対応出来る育児支援策を望んでいる。「現代の母親」と一括りに言われているが、その中にはさまざまな心理的傾向を持つ母親が存在する。

本論の調査で、一般群の母親は、現状の生活全般への不満や社会的への不満な育児を取り巻く環境全体を意識しているのに対して、育児相談群では、育児や育児環境に対して不安の原因を内に求める傾向が認められた。この認識の差異が希望する育児支援にも影響を与えている。一般群の母親は直接的な育児支援だけでなく、間接的な育児支援も育児不安・育児環境因子が強くなれば育児支援希望も強くなるのに対して、育児相談群の母親は育児不安・育児環境因子が強くなれば育児支援希望は弱くなり、育児不安軽減のための直接的な育児支援も希望しない傾向が明らかになった。調査前に育児相談群を育児不安が高く育児支援への被援助志向性の高い対象と考えていたが、被援助志向性については、育児支援希望全体という意味ではなく、個人化した育児不安の解決のための被援助志向性の高い対象ということになる。育児不安の原因を個人化する母親は、社会化する母親よりも育児不安は高くなる。育児不安の軽減には、心理的な支援と社会的な支援が必要であるが、育児不安の原因を個人化する母親は、社会的な支援を求めない傾向にあり育児不安を高めている。このような悪循環から脱出し、育児不安を軽減するには、社会的支援に対する関心を高め、心理的な支援と社会的な支援がバランスよく受容できるように母親に働きかける育児支援が必要となる。

「社会全体で子育てを支援していく」この理念のもと、高齢者支援から子育て支援や三世代交流とパラダイムシフトが行われているが、育児支援について「親が育つ支援」については十分な活動が行われていない状況である。今回の調査では、育児不安・育児環境への認識と育児支援のあり方について相関を見ることはできたが、因果関係についての検討は行えていない。今後は、育児不安と育児環境の認識が育児支援サービスによりどのように変化するのかなど、より充実した育児支援のあり方についての検討を重ねる必要がある。現在、どの地域においても子育ての悩みに関する相談は、子育て支援課や保育士が中心となっている。調査を通じて、普通の母親も含めて育児不安を抱えている母親に対する理解を深め、そこから地域の育児支援の担い手である保育所や幼稚園、認定こども園は子育て支援センター、等の施設や保育者による子育て支援が受容される社会づくりのために積極的な活動機能が必須条件であることが明らかになった。

表4 育児尺度の因子分析結果（バリマックス回転後）

項目	第1因子	第2因子	第3因子	第4因子	第5因子	第6因子	第7因子
行動制約的							
5 ベビーカーで出かけるときに段差や出入り口で困ったことがある	0.885	-0.062	0.024	-0.005	0.001	0.008	-0.047
環境							
4 子ども連れだと街中の階段や段差が気になる	0.727	-0.117	0.182	0.182	0.335	-0.141	-0.007
15 エレベーター、エスカレーターがなくて困ったことがある	0.558	0.205	-0.026	-0.012	-0.317	0.353	0.336
交流的環境							
9 近隣の人が気軽に声を掛けてくれる	-0.138	0.799	-0.254	-0.028	0.040	0.045	-0.125
10 知らない人が、子どもに話し掛けてくれる	0.081	0.783	0.073	-0.255	0.054	-0.150	-0.073
18 困ったとき、知らない人が手助けしてくれた	-0.067	0.551	-0.059	0.220	-0.512	-0.034	-0.068
人的資源不足							
3 夫や実家以外で子どもを預けられる人がいない	0.165	-0.070	0.790	0.100	0.117	0.011	0.181
1 近所に付き合いができる人がいない	0.127	-0.356	0.579	-0.061	0.169	0.378	-0.013
16 子どもを人ごみに連れて行って困ったことがある	0.364	-0.029	-0.504	0.310	0.121	0.160	0.242
物的資源不足							
6 自動車が出かけたときに駐車場で困ったことがある	0.054	-0.114	-0.180	0.827	-0.026	0.140	-0.049
7 子連れで出かけられるところが少ない	0.133	-0.020	0.368	0.667	0.301	0.037	0.163
被害的環境							
8 優先座席をゆずってもらったことがない	0.036	0.003	0.127	0.115	0.693	0.052	0.044
14 自分の用事で外出しにくい	0.068	0.126	-0.073	0.068	0.566	0.358	0.305
疎外的環境							
13 子どもを連れて出歩くことが非難されるように感じる	-0.030	-0.035	-0.068	0.216	0.086	0.773	0.101
17 外出するよりも家にいたほうが楽だと感じる	0.246	-0.220	0.234	-0.009	0.293	0.489	-0.224
12 公園で子どもの姿を見かけないので、行きにくい	-0.175	-0.047	0.327	-0.005	0.028	0.472	0.392
保育場不足							
11 安心して子どもを遊ばせる場所がない	0.098	-0.162	-0.024	-0.076	0.225	0.000	0.760
2 保育所や一時託児のサービスが少ない	-0.064	-0.103	0.220	0.407	-0.035	0.150	0.596
固有値	1.96	1.87	1.73	1.62	1.57	1.57	1.50
因子寄与率	10.90	10.36	9.59	9.03	8.74	8.73	8.35

$\alpha = 0.607$

VIII 引用文献, 参考文献等

- 1) 牧野カツコ (1982) : 乳幼児を持つ母親の生活と育児不安 『家庭教育研究所紀要』 3.34-56
- 2) 輿石薫 (2002) : 母親の自己注目傾向と育児不安について 『小児保健研究』 61 (3) .475-481
- 3) 加藤洋子他6名 (2000) : 子育て環境 『の変化と虐待傾向にある母親が望む子育てサービス 『日本子ども家庭総合研究所紀要』 37.211
- 4) 島田三恵子他2名 (2001) : 産後1ヶ月間の母子の心配事と子育て支援のニーズに関する全国調査 『小児保健研究』 60 (5) .671-679
- 5) 山崎剛他2名 (2002) : 勤労助成の子育ての現状と医療機関への要望についての検討 『小児保健研究』 61 (4) .686